

## 日本版DMO形成・確立計画

## 1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO、 <u>地域連携DMO</u> 、地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人ノース・シティDMO【設立予定】	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	北海道寿都郡寿都町 北海道島牧郡島牧村	
所在地	北海道寿都郡寿都町湯別町下湯別634-4	
設立時期	令和2年3月31日設立予定	
職員数	職員5人【常勤5人(正職員5人)】	
代表者(トップ人材: 法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	北村 龍介 (出身組織名) 株式会社オフィスジェイネット	長い間大学生の就職支援を職とし、その間「仕事に関する知識」と「人脈」を育む。IターンUターン希望の学生を支援する中で地方を行脚することも多く、地方経済が厳しいことを実感しながら現在に至る。 起業後はコンサルタントとして人材教育に関わり、企業・自治体との関わりは採用・政策施策支援へと展開し、今年度より「再エネ海域利用法の施行」に伴い洋上風力発電の事業に加わることとなる。同時に、サステナブル企業であり続けるためにESGを社是とし、SDGsの開発目標実現を目指す企業と共に、故郷でもある寿都町の地方創生の役目を担うことになる。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者(専門人材) ※必ず記入すること	北村 龍一郎「専従」 (出身組織名) 株式会社オフィスジェイネット	(株)三越を退社後、企業コンサルティング・社員研修事業に長年従事し、製品・サービスの品質ビジョン・戦略・ロードマップの策定に携わる。
同上の調査機関(各種データの収集・分析)	株式会社KITABA	寿都町・墨田区他のまちづくりや観光振興に関わる調査や計画策定等に携わっている。寿都町・墨田区他のさまざまな事業においても実績を有している。
総務担当	下田 豊「専従」	長年同地域を中心とした通信インフラの整備に携わり、エリアの特性・課題を熟知。管理業務や地域との調整など業務全般に従事。

(別添) 様式 1

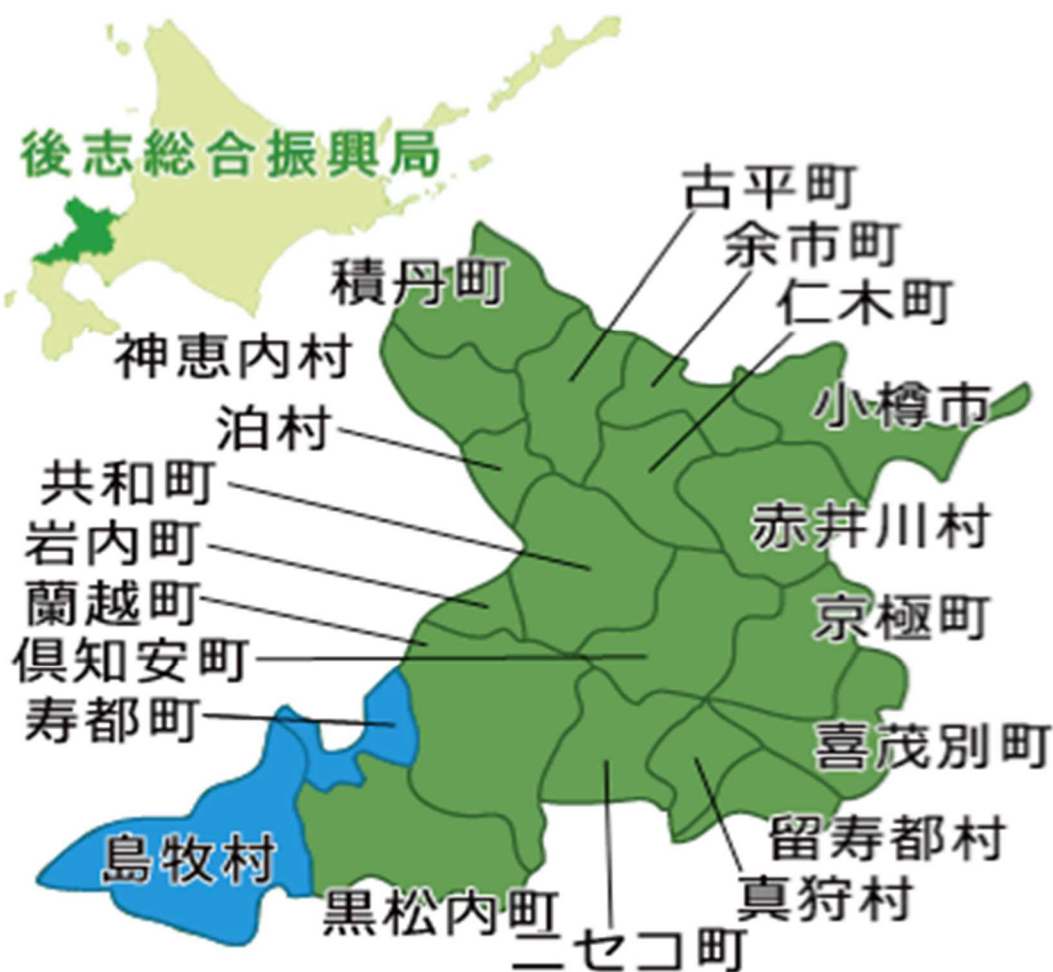
<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>寿都町役場産業振興課・企画課(観光地域づくり)          寿都町役場施設課(社会資本整備、景観)          島牧村企画課(観光地域づくり)          島牧村水産課・農林課・施設課(社会資本整備、景観)</p>
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>寿都商工会・島牧商工会(ふるさと名物の開発)          寿都観光物産協会(ふるさと名物の開発)          一般社団法人 寿都物産協会(ふるさと名物の開発)          株式会社寿都振興公社(商業振興)          株式会社島牧農業振興会(農業振興)          寿都町漁業協同組合(漁業振興)          島牧漁業協同組合(漁業振興)          寿都水産加工業協同組合(ふるさと名物の開発)          株式会社アバローネ(商業振興、道の駅運営)   <b>交通事業者</b>  <b>宿泊事業者</b></p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件)          ④          (概要)          ・事業調整を実務者レベルで行う幹事会・担当者会議(連携する事業者も参加)を定期的で開催予定。日常的な業務はDMO事務局が窓口となり、実務者レベルの調整を継続的に図る。          ・DMOの内部で、マーケティング・データ分析・広域プロモーション・(旅行)商品開発、人材育成の各グループを設置予定。          ・一般社団法人として当然必要な意思決定・合意形成を添付の実施体制図に基づき行う。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>・地域住民と連携し、海岸線や森林などの自然景観、歴史・文化や食などそれぞれの魅力を最大限表現できる新たなコンテンツの確立を図る。          ・人材育成研修を地域住民参加可能とし、定期的実施する予定。          ・民間企業等と協働した自然環境学習体験プログラムづくりを推進する。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)  <b>当法人としての実績はなし</b>           (定量的な評価)</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)          (一社)ノース・シティDMOが事務局を担い、観光地域づくりプラットフォームを形成する。          地域協議の場としては、地域内外の主要事業者が参画する団体、行政等が参画する協議会を活用。観光事業者のみならず、地域内の各種産業と密接に連携した運営を実施していく。</p>

	別添参照
--	------

## 2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

地図貼り付け



### 【区域設定の考え方】

水産業を基軸として発展した地域であるが、近年では観光振興に力を入れ寿都町においてはニセコ観光圏に送客を想定した「アンテナショップ」を配置し、また、島牧村では平成28年よりCAT スキーをスタートさせ国内外から人気を集めているなど、滞在型観光を意識した取組みが双方で行われている。

国道 229 号線で結ばれている寿都町・島牧村は積丹半島南西部に位置している。

地域全体が活性化していく仕組みに観光をツールとして活用していくことは長期的にも観光分野における政策として取組む必要性が益々高まっている。

概ね1時間圏内あるニセコ町は、国際リゾートエリアを圏域とし、多くの観光客が訪れており観光マーケッ

## (別添) 様式 1

トとしての連携は、距離を超えて集客できる魅力を秘めている。

周辺のインフラ整備にあつては、北海道新幹線の長万部町や倶知安駅の開業、さらには後志自動車道の延伸効果など、観光客の多く足となり集客人口の拡大による効果が今後も予想されている。

寿都・島牧エリアは魅力的な観光スポットとして、海岸線や森林などの自然景観、歴史・文化や食などそれぞれの魅力を表現できる環境が整っており、観光は地域が抱える共通課題も多くいことから地域連携DMOの区域として設定する。

### 【観光客の実態等】

インバウンド中心に動線はできつつあるが、そもそも宿泊施設が圧倒的に不足しており、短期滞在(あるいは日帰り)に止まっている。幅広い層の旅行客に長期滞在をしてもらうため、高級宿・ゲストハウス・民泊・ホームステイ先など、宿泊先の選択肢を増やす必要がある。

同時に、交通網・Wi-fiスポットなどのインフラを充実させることも課題と考える。

### 【観光資源:観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

#### [寿都町]

- ・寿都温泉ゆべつのゆ
- ・カクジュウ佐藤家(北海道有形文化財指定)／橋本家(旧鯉御殿)
- ・寿都漁港納涼花火大会:夏季
- ・弁慶岬
- ・スポーツ施設:風太公園/テニスコート/プール/総合体育館
- ・浜中海岸野営場
- ・道の駅:みなとま〜れ寿都
- ・海産物:生炊きしらす・佃煮・寿かき・ウニ・アワビ・ハマグリ
- ・EV車導入による町なか周遊観光の充実

#### [島牧村]

- ・モッタ海岸温泉
- ・CAT スキー
- ・狩場山
- ・江ノ島海岸(日本の渚百選)
- ・賀老の滝(日本の滝百選)  
-ドラゴンウォーター
- ・賀老ブナ原生林
- ・道の駅:よってけ!島牧

#### (共通)

- ・海水浴
- ・キャンプ
- ・ウィンタースポーツ:スキー/スノーボード/スノートレッキング他

(別添) 様式 1

<p>・釣り</p> <p>・海産物:生炊きしらす/佃煮/寿かき/ウニ/アワビ/ハマグリ/エビ/ウニ/アワビ/タコ他</p> <p>【宿泊施設:域内分布、施設数、収容力、施設規模等】</p> <p>●寿都 7 施設、収容人数:121 人(1 日当たり)</p> <p>●島牧 9 施設、収容人数:222 人(1 日当たり)</p> <p>【利便性:区域までの交通、域内交通】 区域東側の寿都町までは、新千歳空港からは約 2 時間 30 分(高速道路使用の場合)、函館市から車で約 2 時間 50 分、ニセコから車で約 1 時間。</p> <p>【外国人観光客への対応】 多言語対応のパンフレットや、ポケット・スマートフォン向けアプリの導入。 宿泊施設のリニューアル・増設にあわせ、インバウンド対応ができる人材を確保・育成したい。また、エリア別のマネジメント部会を開催し、受け入れ環境の整備や、交通アクセスの円滑化、滞在コンテンツの充実などに向け取り組む。</p>
---

**3. 各種データ等の継続的な収集・分析**

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。国別などのデータを収集。	グーグルアクセス解析を活用する。
旅行者満足度	観光振興に対する現状の分析や次の展開に活かすため。	アンケート調査を関係機関・外部業者と連携して実施。
旅行消費額	現状の把握をすることで、それぞれが抱える課題を抽出し、今後の取り組みの方向性について検討を行う基礎資料とするため。	観光客を対象とした観光消費実態調査及び事業者を対象とした観光経済事業所調査を実施。

**4. 戦略**

**(1) 地域の強みと弱み**

	好影響	悪影響
内部環境	<p><b>強み (Strengths)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手つかずの自然環境と素朴な住民キャラクター</li> <li>・海の幸が豊富</li> <li>・北海道(港町)特有の原風景が残る。</li> <li>・東西に長く約 50 キロの海岸線は、岩場あり砂浜ありで釣り人天国</li> </ul>	<p><b>弱み (Weaknesses)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通アクセスの不便</li> <li>・魅力的な宿泊施設の不足(絶対数の不足)</li> <li>・長期滞在向けの宿泊施設の不足</li> <li>・宿泊施設料金に多様性がない</li> <li>・外国人対応など観光案内機能の不足</li> </ul>

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドで賑わうニセコからのアクセスがよい。</li> <li>・ゆべつのゆは、美肌効果が高いとされる硫黄泉と、血行を良くする効果が高いとされる塩化物泉の異なる2種類の泉質を愉しめる温泉</li> <li>・島牧村の温泉は個性的な湯が湧出している。湯量豊富できれいな湯の宮内温泉、白濁した濃い酸性硫黄泉の栄浜冷泉、析出物が付く炭酸を含む重曹泉の千走川温泉、赤い湯で海の展望が良い島牧漁り火温泉。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜の観光の魅力不足</li> <li>・ホスピタリティ不足</li> <li>・雪による冬季生活が不便</li> <li>・名物となるお土産が少ない</li> <li>・魅力的な観光施設が少ない</li> <li>・明かりが少なく、自然環境は昼間しか見られない</li> <li>・冬道のドライブ観光の不安</li> <li>・農家や民宿の後継者不足</li> </ul>
<p><b>外部環境</b></p>	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコツーリズム・スロートーリズムなどの追い風</li> <li>・団塊の世代の退職に伴う市場拡大</li> <li>・国のVJによる外国人観光客の増加</li> <li>・中国・オーストラリアをはじめとするアジアオセアニア経済の発展に伴う観光マーケットの拡大</li> <li>・LCC 就航便数の増加による低価格化</li> <li>・高速道路開通による函館圏・札幌圏のアクセス改善</li> <li>・FIT(Foreign Independent Tour):個人・少数化する旅行者</li> </ul>	<p><b>脅威 (Threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民宿・飲食店の担い手不足</li> <li>・他の観光地との競争激化</li> <li>・自然災害・風評被害</li> <li>・スキー人口の減少</li> <li>・観光インフラの整備</li> <li>・人口減少による旅行者減</li> <li>・若者の旅行離れ</li> <li>・高速道路開通によるスロー現象、街の空洞化</li> <li>・乱開発による自然環境の破壊</li> <li>・農業の担い手不足による農地の荒廃</li> <li>・航空会社(LCC)の競争激化による減便</li> </ul>

(2) ターゲット

<p><b>○第1ターゲット層</b>          北海道内(特にニセコ・札幌・函館)          家族層、修学旅行生、学生・企業の合宿、女性グループやカップル、帰省・帰郷者</p>
<p><b>○選定の理由、○取組方針</b>          リピーターを増やすため、特にニセコ・札幌・函館圏からの家族層や訪問率の高い若年層などの1泊2日訪問・宿泊率を高めることが目的。          満足度調査の充実などにより、再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>
<p><b>○第2ターゲット層</b>          北海道外          50歳以上のアクティブ層、20～40歳代の旅好きな女性、修学旅行生、学生・企業の合宿、長期滞在希望、移住予備軍、帰省・帰郷者</p>

(別添) 様式 1

<p><b>○選定の理由、○取組方針</b></p> <p>避暑地や長期滞在・移住先としての選択肢化を目指し、首都圏を中心とした層をターゲットとする。</p> <p>目的別方針としては、温泉・食・海・登山・アウトドア・サイクリング・避暑・移住とし、特にサイクリングについては、海岸線沿いだけでなく、山海ともに楽しめるコースの開発を進める。</p>
<p><b>○第3ターゲット層</b></p> <p>海外</p> <p>東アジア(特に中国・台湾・香港)については30～60代のリピーター、東南アジアについては家族層へ雪・桜、欧米については家族層へ冬のスキーとする。</p>
<p><b>○選定の理由、○取組方針</b></p> <p>インバウンドについては年間を通して集客できるターゲットであるため、各国の旅行時期にマッチした情報を現地へダイレクトに発信しプロモーションを行なっていく。</p>

**(3) コンセプト**

<p><b>①コンセプト</b></p>	<p>冬は荒々しく、夏は暖かい日本海、泳げる砂浜、パウダースノーの山スキー、日本海の海の幸、癒しの温泉群。そしてクリーンエネルギーを生み出す風の日本海。未来の北海道がここにあります。</p>
<p><b>②コンセプトの考え方</b></p>	<p>寿都町・島牧村は狩場茂津多道立自然公園のエリアに位置し、豊かな自然に恵まれ歴史の息吹を伝えるスポットが数多く存在し、また、水産資源に恵まれ食材に癒される伝統的な郷土料理が存在するなど歴史・文化・自然・食など多彩な潜在的観光資源を有している。</p> <p>日本人のリピーター「特に帰省する人々」をより多くしたい、インバウンドの方々を誘致したいと考え、長期滞在できる拠点創りを目指す。</p> <p>寿都町・島牧村の観光資源を「見るから体験する観光」の体験型とする。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○帰省する人々・子供青年達の合宿・癒しを求める人々の宿泊施設建設</li><li>○四季折々の海と山の風景、採れる幸で作られる郷土料理提供</li><li>○体験型観光(冬のスキー・夏の海水浴場・温泉・農漁業・スポーツ)</li><li>○古の歴史(海・寺院・鉄道)探訪館の建設</li><li>○風車のある風の街「未来の街の形」</li></ul>

(別添) 様式 1

	○小型EV車でエリア拠点を繋ぐの各プランを着実に実現していく。
--	---------------------------------

**5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション**

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体間連携 マーケット調査の結果等をベースに戦略案を作成し、関連セクションとのコミュニケーションの中でブラッシュアップを行い自治体の首長間で合意形成を図る。</li> <li>・関連事業者 日常的な調整を実務者レベルで行い戦略展開の共有を図る。</li> </ul>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	区域を訪れる観光客の満足度向上のために、来訪者が「何に期待し」「何にイメージとのギャップを感じ」「どれぐらい満足し」「自分の経験を他人に紹介したいか」「もう一度来たいか」を数値化し、平年での変化を追いかけながら、それをフィードバックしつつ、サービスの維持向上を図る。
一元的な情報発信・プロモーション	来訪者(未来訪者を含む)にブランドイメージを訴求するため、地域一帯で「ブランド・コンセプト」に基づく統合的な情報発信を HP・SNS にて行う。また、その中では、宿泊や体験プログラムを予約～決済まで一括管理・販売可能なシステムの採用を目指す。

**6. KPI (実績・目標)**

※2018年度延べ宿泊者数を除き、2020年4月より計測予定

(1) 必須KPI

※2018年延べ宿泊者数は各自治体が保有するデータを合算

指標項目	単位	2018年 (度)		年 (度)	年 (度)	年 (度)	年 (度)	年 (度)
●旅行消費額		( )		( )	( )	( )	( )	( )
●延べ宿泊者数		50,458人 (不明)		( )	( )	( )	( )	( )
●来訪者満足度		( )		( )	( )	( )	( )	( )
●リピーター率		( )		( )	( )	( )	( )	( )

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方



(別添) 様式 1

<p><b>【検討の経緯】</b>  <b>【設定にあたっての考え方】</b>                  本地域の目指すところをまとめたグランドプランにおいて、目標は地域における観光の推進であり、取り組みの効果を具体的に評価・検証できるよう、「宿泊延べ数」「総合満足度」「観光客消費単価」「リピーター率」の数値を増やすことを目安に進めていく。</p> <p>●旅行消費額 観光経済効果の指標と考える。</p> <p>●延べ宿泊者数 観光施策の最も重要な指標と考える。</p> <p>●来訪者満足度 総合満足度と不満足は何を原因としているかを図る重要な指標として分析。</p> <p>●リピーター率 リピーター率を分析することで事業推進の方向を考える。</p>
---

(2) その他の目標

指標項目	単位	年 (度)	年 (度)	年 (度)	年 (度)	年 (度)	年 (度)
●観光入込客数	人	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●平均宿泊数	泊	( )	( )	( )	( )	( )	( )
●外国人宿泊数	人	( )	( )	( )	( )	( )	( )

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p><b>【検討の経緯】</b> 各施策の評価検討の物差しのひとつとして活用を予定。</p> <p><b>【設定にあたっての考え方】</b>                  ●観光入込客数 滞在プログラムやイベント等の指標として活用、日帰り客を含めた経済効果を計るため。                  ●平均宿泊数 月ごとの入込の平準化・通年化を狙った取り組みの評価として活用。                  ●外国人宿泊数 インバウンドへの取り組みの評価指標として活用。</p>
--

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
R1 年度	2,600,000 (円)	【企業からの融資】 2,600,000

## (別添) 様式 1

R2 年度	403,600,000 (円)	【市町村からの補助金】 403,600,000 (市町村の主な財源 : 地方創生推進交付金 200,000,000 : 地方債 200,000,000)
R3 年度	442,351,000 (円)	【市町村からの補助金】 403,600,000 (市町村の主な財源 : 地方創生推進交付金 200,000,000 : 地方債 200,000,000) 【事業収入】 5,571,000 【民間企業からの出資金】 10,000,000 【銀行等からの会費収入】 5,000,000 【繰越金】 18,180,000
R4 年度	465,389,000 (円)	【市町村からの補助金】 403,600,000 (市町村の主な財源 : 地方創生推進交付金 200,000,000 : 地方債 200,000,000) 【事業収入】 24,168,000 【民間企業からの出資金】 10,000,000 【銀行等からの会費収入】 5,000,000 【繰越金】 22,621,000
R5 年度	136,417,000 (円)	【市町村からの補助金】 53,600,000 (市町村の主な財源 : 地方創生推進交付金 25,000,000 : 地方債 25,000,000) 【事業収入】 54,258,000 【繰越金】 28,559,000
R6 年度	114,845,000 (円)	【市町村からの補助金】 35,600,000 (市町村の主な財源 : 地方創生推進交付金 16,000,000 : 地方債 16,000,000) 【事業収入】 54,258,000 【繰越金】 24,987,000

(別添) 様式 1

(2) 支出

年度	総支出	内訳
R1 年度	2,600,000 (円)	【法人設立関係費】 2,600,000
R2 年度	385,420,000 (円)	【人材育成費】 11,000,000 【法人設立関係費】 13,220,000 【管理運営費】 37,600,000 【施設整備費】 321,000,000 【返済】 2,600,000
R3 年度	419,730,000 (円)	【人材育成費】 11,000,000 【管理運営費】 38,630,000 【施設整備費】 370,100,000
R4 年度	436,830,000 (円)	【人材育成費】 11,000,000 【施設整備費】 335,400,000 【管理運営費】 90,430,000
R5 年度	111,430,000 (円)	【人材育成費】 11,000,000 【管理運営費】 100,430,000
R6 年度	111,430,000 (円)	【人材育成費】 11,000,000 【管理運営費】 100,430,000

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

国・市町村からの補助金及び委託事業の資金が当面の主な運営資金であるが、その他に旅行業を利用した収益事業や HP バナー掲載収益、会費徴収の仕組み(各種データ分析の開示、英語表記の支援、セミナー情報等)を構築し運営資金にあてる。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

北海道寿都町、島牧村は、一般社団法人ノース・シティ DMO を当該市町村における地域DMOとして登録したいので一般社団法人ノース・シティ DMO とともに申請します。

### 9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	北村 龍一郎
担当部署名 (役職)	理事
所在地	北海道寿都郡寿都町湯別町下湯別634-4
電話番号 (直通)	042-740-5657
FAX 番号	042-740-5647
E-mail	info@officejnet.co.jp

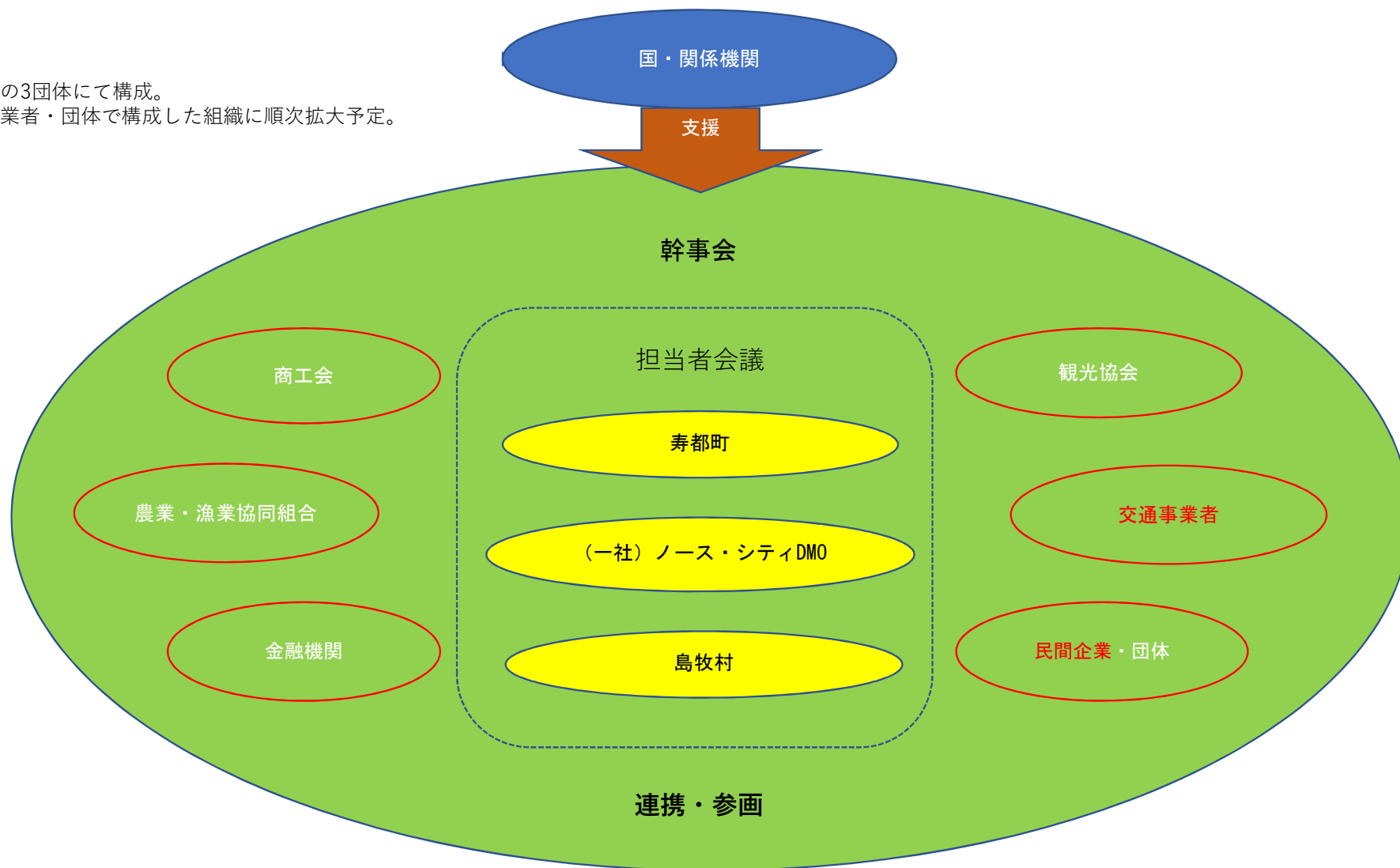
### 10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	北海道寿都郡寿都町
担当者氏名	瀧山 修市
担当部署名 (役職)	産業振興課 課長
所在地	北海道寿都郡寿都町字渡島長 140 番地 1
電話番号 (直通)	0136-62-2602
FAX 番号	0136-62-3431
E-mail	sangyou@town.suttu.lg.jp

都道府県・市町村名	北海道島牧郡島牧村
担当者氏名	佐藤 享
担当部署名 (役職)	企画課 課長
所在地	北海道島牧郡島牧村字泊83番地1
電話番号 (直通)	0136-75-6212
FAX 番号	0136-75-6216
E-mail	kikaku@vill.shimamaki.lg.jp

【別紙1】  
実施体制図

※当面は点線枠内の3団体にて構成。  
※楕円外枠内の事業者・団体で構成した組織に順次拡大予定。



【区域】北海道 寿都町、島牧村

【設立時期】令和1年12月1日

【代表者】

北村 龍介

【マーケティング責任者】

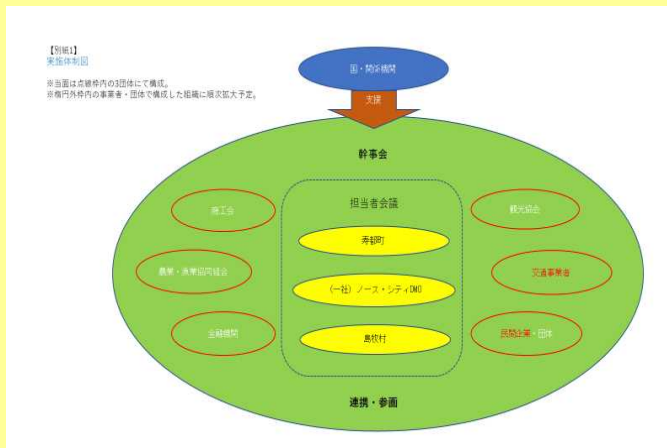
北村 龍一郎

【職員数】職員5人【常勤5人(正職員5人)】

【連携する主な事業者】

観光協会、**交通事業者**、町村商工会、  
物産協会、農業漁業協同組合、**民間企業**・団体

(表：実施体制)



(表：KPI(実績・目標))※( )内は外国人に関するもの  
※2018年度延べ宿泊者数を除き、  
令和2年4月より計測予定

	2018(度)	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)
旅行消費額	( )	( )	( )	( )	( )
延べ宿泊者数	50,458人 (不明)	( )	( )	( )	( )
来訪者満足度	( )	( )	( )	( )	( )
リピーター率	( )	( )	( )	( )	( )

自然・歴史・文化に関する取組

寿都町・島牧村は狩場茂津多道立自然公園のエリアに位置し、豊かな自然に恵まれ歴史の息吹を伝えるスポットが数多く存在する。  
○人気の釣りやCATスキー、トレッキング、サイクリング等、自然を満喫する旅行商品のブラッシュアップ・PR。  
○宿坊や有形文化財である古民家を活用したゲストハウスの整備等、新たな観光インフラ・商品開発に取り組む。

外国人誘客に関する取組

- 案内表示の多言語化対応
- 英会話事業の運営(人材育成)
- 外国人誘客パンフレットの作成
- 外国人向け旅行商品の造成・販売
- Wi-Fiの整備
- モニターツアー、FAMツアーの開催
- 二次交通ネットワークの構築
- 近隣自治体との連携

寿都町エリア

- ・寿都温泉ゆべつゆ
- ・カクジュウ佐藤家(北海道有形文化財指定)/旧鯉御殿
- ・スポーツ施設  
風太公園/テニスコート/プール
- ・浜中海岸野営場
- ・弁慶岬
- ・寿都漁港納涼花火大会
- ・道の駅:みなとま〜れ寿都
- ・海産物

島牧村エリア

- ・モッタ海岸温泉
- ・CATスキー
- ・狩場山
- ・釣り
- ・江ノ島海岸(日本の渚百選)
- ・賀老の滝(日本の滝百選)  
-ドラゴンウォーター
- ・賀老ブナ原生林
- ・道の駅:よってけ!島牧
- ・海産物



滞在型観光に関する取組

- 着地型観光商品の造成、販売
- 農泊を利用した教育旅行誘致
- 多様な観光ニーズに応える宿泊施設の建設
- 体験プログラムの構築、販売
- 広域レンタサイクルの設立、運営
- サイクルコースの整備、運営
- ガイド団体の運営、ガイドの育成
- 小型EV車でエリア拠点を繋ぐ

体験に関する取組

- 海・山・森遊び
- オートキャンプ(グランピング)
- サイクルツーリズム
- マリン・リバーレク
- 体験農園(収穫体験・フラワーガーデン)
- 体験漁業(畜養施設利用)
- 移住体験
- 歴史体験